

# 湿地を守るには？

ラムサール条約の登録湿地になったことは、宍道湖・中海が重要な湿地として世界に認められたということです。宍道湖と中海はすばらしい湖ですが、水質の悪化や、赤潮など問題もたくさんあります。これから二つの湖が、もっとすばらしい場所になるためには、私たち一人一人が心がけて、環境を保全する行動をしていかなければ何も変わらないのです。あなたにできることを一つでも始めてみませんか？

## 宍道湖・中海とワイズユース

ラムサール条約では、湿地の自然や生きものを守りながら、未来の子どもたちにも湿地の恵みを永遠に届けられるように、湿地をうまく利用していこうと考えています。そういった考え方を、条文の中では英語で「ワイズユース(Wise Use)」と書かれており、日本語では「賢明な利用」とか「適正な利用」といわれています。

宍道湖・中海では、すでに様々なワイズユースの取り組みが行われています。



「じょれん(釣簾)」

宍道湖のシジミ漁は、ワイズユースの良い例です。宍道湖では、むかしから漁師さんたちが話し合っ、シジミをとる量や時間を決めて、とりすぎないようにしてきました。また、「じょれん」という道具を使うことによって、じょれんのあみ目からこぼれ落ちるような、小さな子どものシジミはとらないようにしています。

漁師さんたちは、宍道湖のおいしいシジミを、これからもずっとみなさんに食べてもらえるように工夫しています。



シンポジウムなどを開いて関心を高める



産物をブランド化して商品価値を高める(宍道湖七珍)



宍道湖や中海の美しさをより多くの人にみってもらう(観光)



自然観察会で湿地の生きものとふれあう



湿地の水質を調べる



自然に近い湿地にもどす